

資料・統計

2017年中央手術部統計

Annual Report of Operations in 2017

新潟県立がんセンター新潟病院
中央手術部

1. 消化器外科

		非上皮性腫瘍	
		GIST	開腹 腹腔鏡下
胃			0
胃癌	273	悪性リンパ腫	3
Staging laparoscopy	58	その他	1
切除		その他	2
全摘	開腹 34		
	腹腔鏡下 12	食道	50
残胃全摘	開腹 8	良性腫瘍	1
噴門側切除	開腹 0	非上皮性腫瘍	0
	腹腔鏡下 11	食道癌	49
幽門側切除	開腹 46	右開胸 (腹腔鏡併用0)	5
	腹腔鏡下 71	胸腔鏡下 (腹腔鏡併用5)	34
PPG	開腹 0	左開胸	3
PPG	腹腔鏡下 1	開腹	1
分節切除	開腹 0	咽喉食道全摘	0
SSD・部分切除	開腹 1	遊離空腸移植	0
	腹腔鏡下 0	食道抜去	1
非切除		試験開胸	1
単開腹	1	頸部リンパ節郭清	0
バイパス	開腹 1	腹部リンパ節郭清	1
	腹腔鏡下 2	食道切除後2次的再建術	0
その他	1	バイパス術	3
再発		胃管癌	0
肝転移切除	1	胃管全切除(胸骨縦切開)	0
卵巣転移切除	0	胃管部分切除	0
リンパ節郭清	0	特発性食道破裂	0
局所切除	0		
腸切除	0	肝胆膵	97
バイパス	1	肝腫瘍	
人工肛門造設	3	肝細胞癌	6
その他	1	肝内胆管癌	3
イレウス		転移性肝癌	4
癒着剥離	6	その他肝腫瘍	1
腸切除	1	胆道癌	
バイパス	1	十二指腸乳頭部癌	3
人工肛門造設	0	胆嚢癌	2
胃瘻・空腸瘻	0	胆管癌	15
腹壁癒着ヘルニア		膵疾患	
修復術	開腹 1	膵臓癌	25
	腹腔鏡下 0	IPMA・MCN	2

内分泌腫瘍	2	横行結腸下行結腸切除術	1
その他悪性腫瘍		試験開腹術	1
十二指腸癌	0	低位前方切除術	1
G I S T	1	結腸良性	2
小腸癌	0	(腹腔鏡下手術)	2)
N H L	1	直腸悪性	90
その他悪性	4	(腹腔鏡下手術)	74)
その他		低位前方切除術	45
胆石症・胆嚢ポリープ	18	前方切除術	18
肝内結石症	3	直腸切断術	7
汎発性腹膜炎	0	非切除術(人工肛門造設術)	7
ヘルニア	1	超低位前方切除術	7
腹腔内膿瘍	0	骨盤内臓全摘術	2
腸閉塞	3	経肛門的切除術	2
閉塞性黄疸	0	大腸全摘術	2
その他良性	2	直腸良性	0
術後合併症	1	再発・転移	50
術式		肝切除術	34
膵全摘	3	腹膜播種腫瘍切除術	10
膵中央切除	2	卵巣摘出術	4
膵頭十二指腸切除	29	傍大動脈リンパ節郭清術	2
膵体尾部切除	7	低位前方切除術切除術	2
肝切除	14	脾臓摘出術	1
肝門部胆管癌手術	3	バイパス術	1
胆嚢癌根治術	1	肝ラジオ波焼灼術	1
胆管癌手術	1	骨盤リンパ節郭清術	1
小腸悪性腫瘍手術	1	肝転移	35
腹腔鏡下胆嚢摘除	16	(上記原発再発症例に含まれる)	
ラジオ波焼灼	0	異時	27
腹腔鏡下肝切除	1	(上記再発症例に含まれる)	
その他悪性腫瘍手術	0	同時	8
開腹胆摘	3	(上記原発症例に含まれる)	
総胆管切石	0	その他の手術	80
胆道再建	5	(内緊急手術)	24)
PTCD/PTAD	0	他科癌・他癌	17
その他	11	人工肛門造設術	7
結腸、直腸手術症例	349	腹膜播種切除術	6
全身麻酔手術		大腸切除術	5
原発	217	リンパ節郭清術	2
結腸悪性	125	バイパス術	1
(腹腔鏡下手術)	95)	人工肛門閉鎖術	41
右半結腸切除術	50	洗浄ドレナージ、人工肛門造設術	5
S状結腸切除術	41	洗浄ドレナージのみ	5
下行結腸S状結腸切除術	8	腸閉塞手術(腸切除なし)	4
左半結腸切除術	6	腸閉塞手術(腸切除あり)	3
横行結腸切除術	5	腹壁癒痕ヘルニア手術	3
回盲部切除術	5	胆嚢摘出術	2
大腸重全摘術	4	鼠径ヘルニア根治術	2
下行結腸切除術	2	膿瘍ドレナージ術	2
人工肛門造設術	1	洗浄ドレナージ、小腸切除	2

腹腔鏡下再吻合術	2
バイパス術	1
腹壁再縫合術	1
大網充填術+洗浄ドレナージ	1
S状結腸切除術手術	1
虫垂切除術	1
直腸脱手術	1
吻合部拡張術	1
超低位前方切除術	1
審査腹腔鏡	1

2017年の消化器外科における各臓器での入院手術件数は、食道:50件 (11件増加), 胃:273件 (7件増加), 結腸・直腸:347件 (32件増加), 肝胆膵:97件 (44件減少)であった。鏡視下手術の件数は、食道:34件 (4件増加), 胃:95件 (9件増加), 結腸・直腸:171件 (23件増加), 肝胆:17件 (増減なし)に増加した。高難易度手術を要する症例や難治性の進行・再発癌の症例数の割合が多い傾向が継続し、癌専門施設としての当院の役割を反映している。安全性を担保しつつ根治性や術後QOLを高める治療を要求される情勢の中、腹腔鏡手術の適応拡大や本年より保険収載されたロボット支援手術の導入に積極的な施設が増加している。一層の技術向上と維持に加え、新しい手技を模索することが求められる。

(文責 消化器外科 會澤雅樹)

2. 乳腺外科

外来手術	
乳腺	5
入院手術	
乳腺	
良性+プローベ	4
乳癌	316
Auchincloss	71
Mastectomy + SLNB	118
Simple mastectomy	13
Lumpectomy + Ax	10
Lumpectomy + SLNB	70
Lumpectomy	34
その他	
局所再発 (リンパ節, 創)	10
温存乳房切除	18
温存乳房部分切除	
乳房内再発	7
後出血	0
その他	2

【エキスパンダー挿入:上記手術数に算定済み】

1次2期再建 28
(うち2例は温存乳房内再発に対して)

2017年の原発性乳癌手術数は316件で、昨年より21件の増加であった。温存療法は約36%に施行されており、2013年 (60%), 2014年 (51%), 2015年 (47%), 2016年 (41%) とさらに低下傾向は継続している。腋窩リンパ節手術を施行した269件のうち、センチネルリンパ節生検 (SLNB) のみでの終了は188件 (約70%) であった。1次2期再建の件数は昨年と著変なかった。乳癌は比較的予後良好であり、術後補助療法のみならず手術療法も個別化の時代である。“Shared decision making”の姿勢が求められている。

(集計・文責 神林 智寿子)

3. 呼吸器外科

() 胸腔鏡手術

1. 気管 (支) 疾患	0
2. 肺疾患	272(151)
2-1 良性肺疾患	9(7)
炎症性腫瘍	3(3)
真菌症	2(2)
その他良性肺腫瘍	4(1)
過誤腫	1(1), 平滑筋腫
神経鞘腫	1(0), 肺骨化?
2-2 悪性腫瘍	263(124)
2-2-1 原発性肺癌	227(104)
全摘除	3(0)
肺葉切除	197(96)
区域切除	17(1)
部分切除	3(3)
試験開胸	1(1)
他	生検 4 (4), 再発 2(0)
2-2-2 転移性肺腫瘍	36(20)
結腸直腸癌肺転移	19(10)
腎癌	2(2)
肺癌	2(1)
乳癌	3(3)
皮膚がん	2(2)
精巣がん	1(0)
悪性リンパ腫	1(0)
2-2-3 その他の悪性肺疾患	0
3. 縦隔疾患	10(2)
3-1 縦隔腫瘍	10(2)
胸腺腫	6(0)
神経細胞腫	1(1)
胸腺腫再発	2(1)
リンパ節腫大	1(0)

3-2 縦隔鏡検査	0
4. 胸膜疾患	22(7)
気胸	3(3)
血胸	0(0)
術後気管支断端瘻	6(0)
胸膜腫瘍	1(0)
術後肺漏	9(2)
肺膿瘍	1(0)
孤立性線維腫	2(2)
5. 胸壁疾患	0

2017年の手術総数は307件で、前年のほぼ1割減であった。肺悪性腫瘍の手術は263例と昨年からやや減少した。原発性肺癌手術例は227例と過去最多であった昨年の238例に比べわずかに減少したが、ここ数年では昨年に次いで多かった。肺癌に対する完全鏡視下手術は104例と増加し、対象症例を選択し術者の固定により手技が安定してきた。一方肺癌術後の気管支断端瘻に対する手術が増加し6回の手術を行った。転移性肺腫瘍に対する手術は36例と例年並みで約半数強が胸腔鏡手術であった。

(文責 吉谷 克雄)

4. 整形外科

腫瘍性疾患

良性軟部腫瘍	
切除術 (切除個数)	141
生検	7
良性軟部腫瘍	計 148
良性骨腫瘍	
切除または搔爬 + 骨移植	30
切除 + 人工関節	0
生検	3
良性骨腫瘍	計 33
悪性軟部腫瘍	
広範切除	12
広範切除 + 皮弁など再建	3
生検	6
悪性軟部腫瘍	計 21
悪性骨腫瘍 広範切除	1
広範切除 + 人工関節・自家骨移植	3
切除	0
生検	4
悪性骨腫瘍	計 8

転移性腫瘍・脊椎	
除圧・後方固定	0
転移性腫瘍	
髄内釘・ピンニング	6
切断	2
広範切除 + 人工関節	2
人工骨頭置換術	3
切除・生検	11
転移性腫瘍	計 24
腫瘍性疾患	計 234

非腫瘍性疾患

脊椎疾患	
腰部脊柱管狭窄	0
腰椎椎間板ヘルニア	0
椎弓切除	2
脊椎疾患	計 2
股関節疾患	
人工股関節置換術	1
人工股関節再置換術	2
人工骨頭置換術	8
股関節疾患	計 11
膝関節疾患	
人工膝関節置換術	0
人工膝関節再置換	0
観血的関節授動術	1
滑膜切	3
膝関節疾患	計 4
肩・肘・手関節疾患	
腱鞘切開	5
手根管開放術	1
滑膜切除	2
神経移行, 剥離	1
関節脱臼観血的整復術	1
デュプイトレン拘縮手術	1
肩・肘・手関節疾患	計 11
足・足関節疾患	
人工関節	0
皮弁形成術	1
足・足関節疾患	計 1
その他	
骨接合術	9
骨搔爬術 (骨髄炎手術)	3
デブリードマン	8
抜釘・異物除去	5

その他	計 25
非腫瘍性疾患	計 54
総合計 288	

総手術件数に対する腫瘍性疾患の比率は81.2%であった。腫瘍性疾患のうち良性骨軟部腫瘍77.3%, 悪性骨軟部腫瘍12.4%, 転移性腫瘍10.3%であった。
(文責 佐々木太郎)

5. 脳神経外科

総手術件数	25
1) 腫瘍摘出術	10
悪性腫瘍	8
良性腫瘍	2
2) 脳血管障害	0
血腫除去術	0
他	0
3) 頭部外傷	6
急性頭蓋内血腫	0
慢性硬膜下血腫	6
4) その他	9
オンマイヤー設置	6
生検術	2
他	1

全身麻酔による頭蓋内腫瘍の摘出術は10例であった。担癌患者のため、全身状態が良好で、摘出術のできる状況が少ないということが一番の要因で、多くの症例がノバルリスによる定位放射線治療の適応となっている。嚢胞性の転移性脳腫瘍には局所麻酔下にてできる穿頭術によるオンマイヤーリザーバの設置があり、高齢の方にも適応出来るため、近年増加傾向にある。当年では、ナビゲータシステムを借りてオンマイヤーリザーバを定位的に留置させる症例が2例あった。深部の腫瘍にも積極的に用いられるようになってきている。
(文責 高橋英明)

6. 婦人科

腹式子宮全摘出術 (+ 附属器摘出術など)	56
子宮筋腫	34
子宮腺筋症	2
子宮頸癌	CIS/AIS 12
I A1期	3
I B2期	1
子宮内膜増殖症	3
LEGH疑い	1

腔式子宮全摘出術		1
子宮頸癌	CIS	1
準広汎子宮全摘出		5
子宮頸癌	I A1期	1
I B1期		2
子宮体癌	II期	1
III B期		1
広汎子宮全摘出術		15
子宮頸癌	I B1期	11
I B2期		2
II A期		1
腔癌	II期	1
子宮体癌手術		47
(原則的に子宮全摘出術+両側附属器摘出術+骨盤リンパ節郭清準広汎子宮全摘以上を除く。子宮肉腫を含む)		
子宮体癌	I A期	31
I B期		5
II期		0
III A期		2
III B期		2
III C1期		2
III C2期		4
IV A期		0
IV B期		0
子宮肉腫	III B期	1
悪性子宮付属器腫瘍手術 (原発性)		47
(原則的に子宮全摘出術+両側附属器摘出術+骨盤リンパ節郭清+大網切除術)(卵管癌, 腹膜癌を含む)		
卵巣癌	I A期	5
I B期		0
I C期		13
II A期		0
II B期		4
II C期		0
III A期		1
III B期		2
III C期		5
IV A期		0
IV B期		3
卵管癌	I A期	1
I C期		1
II A期		1
II B期		3

	ⅢB期	1
	ⅢC期	2
	ⅣB期	1
腹膜癌	Ⅲ c 期	1
卵巣境界悪性腫瘍手術		4
<hr/>		
子宮頸部円錐切除術		83
子宮頸部異形成		31
子宮頸癌	CIS	40
	AIS	1
	CIS+AIS	1
	I A1期	4
	I A2期	1
子宮頸癌疑い		4
	LEGH疑い	1
<hr/>		
LEEP (Loop Electrocautery Excision Procedure)		0
<hr/>		
その他の悪性腫瘍手術		11
外陰・膣悪性腫瘍手術		2
再発癌手術		1
試験開腹術		3
初回不十分手術後の追加切除術		3
転移性卵巣癌に対する手術		2
<hr/>		
付属器摘出術		21
(付属器腫瘍摘出術を含む)		
<hr/>		
子宮筋腫核出術		7
<hr/>		
性器脱手術		4
膣式子宮全摘出術+LeFort手術		3
LeFort手術		1
<hr/>		
腹腔鏡下手術		26
腹腔鏡下子宮全摘術		2
良性卵巣腫瘍		19
乳癌既往症例の付属器摘出		1
悪性腫瘍に対する診査腹腔鏡		4
<hr/>		
経頸管的切除 (TCR)		2
子宮筋腫		2
<hr/>		
子宮内容除去術		7
子宮内膜増殖症		3
子宮体癌疑い		3
IUD遺残		1
<hr/>		
その他		15

CVポート抜去	5
腹腔ポート抜去	1
組織内照射	3
外陰腫瘍切除術	1
膣式子宮筋腫摘出術	1
骨盤内腫瘍摘出術	1
術後腹壁離開に対する再縫合術	1
子宮頸管狭窄に対する頸管拡張術	1
腸管穿孔の修復術	1
<hr/>	
計	348

2017年の手術件数は348件であり、ここ10年で最も少なかった昨年を下回りさらに減少した。全体に占める悪性腫瘍手術の割合は著変無い。悪性腫瘍手術に占める子宮体癌の割合はここ10年で最も多かった。
(文責 横尾 朋和)

7. 泌尿器科

副腎腫瘍の手術 (小計2)	
副腎摘出術	1
腹腔鏡下副腎摘出術	1
腎腫瘍および腎の手術 (小計71)	
根治的腎摘出術	27
腹腔鏡下根治的腎摘出術	2
腎部分切除術	20
腎腫瘍生検	5
経皮的腎瘻造設術 (PNS)	14
腎その他	3
腎盂・尿管腫瘍および腎盂・尿管の手術 (小計108)	
腎尿管全摘出術	23
尿管摘出術	2
尿管カテーテル法 (留置を含む)	80
腎盂・尿管その他	3
膀胱腫瘍および膀胱の手術 (小計348)	
膀胱全摘出術+回腸導管造設術	11
膀胱全摘出術+尿管皮膚瘻造設術	1
膀胱全摘出術+回腸利用代用膀胱造設術	1
膀胱部分切除術	3
経尿道的膀胱腫瘍切除術 (TURBT)	322
膀胱内血腫除去・止血術	6
膀胱陰嚢閉鎖	1
膀胱その他	3
尿道腫瘍および尿道の手術 (小計7)	
経尿道的尿道腫瘍切除術	1
内尿道切開術	6
前立腺腫瘍および前立腺の手術 (小計346)	
前立腺生検	320
前立腺全摘出術	13

経尿道的前立腺切除術	4
両側精巣摘出術 (去勢術)	7
前立腺その他	2
精巣腫瘍および精巣の手術 (小計11)	
高位精巣摘出術	10
骨盤リンパ節郭清	1
陰茎腫瘍および陰茎の手術 (小計6)	
鼠径・骨盤リンパ節郭清	5
陰茎その他	1
その他 (小計3)	
総計	902手技 (857件)

2017年の手術件数は857件 (902手技) で、前年とほぼ同数であった。近年、前立腺全摘が減少傾向であり、ロボット支援手術が可能な施設へ紹介されているものと推察される。その他の手術はほぼ例年通りであった。
(文責 小林和博)

8. 皮膚科

悪性腫瘍

悪性黒色腫	51
基底細胞癌	81
有棘細胞癌	49
ボーエン病	32
日光角化症	43
乳房外パジェット病	8
皮膚附属器腫	8
(汗孔癌5, アポクリン腺癌1, 脂腺癌1, 粘液癌1)	
悪性リンパ腫	1
転移性皮膚癌	5
血管肉腫	1
メルケル細胞がん	1
小計	287

良性腫瘍・その他

母斑細胞母斑	128
上記以外の母斑	33
表皮嚢腫 (粉瘤)	136
脂漏性角化症	69
脂肪腫	42
皮膚線維腫	29
軟線維腫	6
良性皮膚付属器腫瘍	21
(汗孔腫12, 外毛根鞘腫1, 増殖性外毛根鞘性腫瘍1, 脂腺腫7)	
血管腫	26
血管拡張性肉芽腫	9
ケラトアカントーマ	17
石灰化上皮腫	29

慢性膿皮症	2
良性神経系腫瘍	10
疣贅	12
リンパ節生検	20
その他	105
小計	687

合計 974

例年通り、多くの悪性・良性腫瘍の手術をさせて頂いた。特にスピーディーな回転が求められる外来患者の手術においてこれだけの件数がこなせるのは、ひとえに手術室スタッフの尽力に負うところが大きい。これからも安全かつ効率的な皮膚外科手術を継続できるように努めたい。

(文責 竹之内辰也)

9. 眼科

水晶体再建術: 眼内レンズを挿入する場合	135
水晶体再建術+緑内障手術	15
濾過手術を含む緑内障手術	15
眼瞼結膜手術	11
硝子体注射	20
その他	4
合計	200

相変わらず1名による手術体制であるが、2017年の手術件数は、緑内障に関連する手術件数が増えて、前年と同等の手術件数であった。手術の種類が多岐となり、難易度の高い症例も多く、他院から紹介される手術対象患者の比率が増大傾向にある。

一方、2017年は手術顕微鏡の機種更新をすることができ、より安全な手術を完遂することが可能となった。
(文責 原 浩昭)

10. 頭頸部外科

甲状腺・副甲状腺

副甲状腺腫瘍摘出	8
甲状腺良性腫瘍半切	10
甲状腺癌	
(半切+D 1, 含む残葉切除+頸部郭清)	78
甲状腺癌 (全摘)	10
甲状腺癌 (全摘, 頸部郭清)	5

小計 111

頸部

頸部リンパ節摘出	11
頸部神経鞘腫	1
頸部脂肪腫	1
頸部悪性腫瘍切除, 頸部皮膚再建 (大胸筋皮弁)	1
頸部郭清術のみ (原発操作に付属する頸部郭清)	12 (36)
小計	26

気管・喉頭

気管切開	19
気管孔閉鎖	7
プロボックス手術	4
喉頭腫瘍摘出術 (直達鏡によるもの)	26
喉頭全摘頸部郭清	11
小計	67

口腔・口唇

口唇悪性腫瘍手術	1
口腔底癌切除	2
口腔底癌切除, 腹直筋皮弁再建	1
口腔底癌切除, 大胸筋皮弁再建	1
舌腫瘍摘出術	2
舌悪性腫瘍手術 (切除)	7
舌悪性腫瘍切除, 下顎骨辺縁切除	1
舌悪性腫瘍手術 (亜全摘), 腹直筋皮弁再建	1
小計	16

咽頭

咽頭悪性腫瘍手術 (軟口蓋)	3
経口的中咽頭癌切除	3
経口的中咽頭癌切除, 頸部郭清	1
口蓋腫瘍摘出術	2
中咽頭癌切除, 大胸筋皮弁再建	2
下咽喉頭全摘, 大胸筋皮弁再建	2
下咽頭喉頭全摘, 空腸再建	1
下咽頭鏡腫瘍摘出術 (経口腔による)	10
小計	24

鼻副鼻腔

上顎骨悪性腫瘍手術	1
小計	1

大唾液腺

耳下腺良性腫瘍切除	11
耳下腺多形腺腫内癌全摘頸部郭清	3
顎下腺腫瘍摘出術	2
小計	16
その他	
咽頭皮膚瘻孔閉鎖 (局所)	2
咽頭皮膚瘻孔閉鎖 (大胸筋皮弁)	1
末梢型中心静脈カテーテル留置	8
気管孔止血術	1
外耳道腫瘍生検	1
ポート抜去	1
小計	14
合計	275

手術総数は2010年167件, 2011年236件, 2012年261件, 2013年265件, 2014年212件, 2015年237件, 2016年251件, 2017年275件と2015年のV字回復から毎年増加傾向にある。これは, 他院からの紹介数が堅調であったことに加え, 頭頸部癌自体の増加という疫学的な要因もあると考えている。また, 2017年から手術入力システムが刷新され, 自家枠以外の空き枠で手術が可能となった。当科の空き枠利用数はトップクラスで, 手術待機時間の短縮, 手術件数の増加, 効率的な働き方などに繋がっている。

【甲状腺癌】甲状腺症例は前年比で20%増しとなっていた。県内全域他科の先生方からご紹介が多くなってきたためである。技術面では, Inter Operative Nerve Monitoring により反回神経温存に務め, Ligasure Small Jawの導入で低侵襲手術を継続している。内視鏡下甲状腺腫瘍切除の導入については今年度中のスタートを目指している。

【機能温存手術】当科の特色のひとつに喉頭機能温存手術がある。LASER切除, 喉頭垂直部分切除, 喉頭温存下咽頭部分切除, 喉頭亜全摘 (CHEP:Cricohyoid epiglott-pexy), プロボックス手術が可能である。これらは多職種連携による術後リハビリテーションが大事である。2013年春から言語聴覚士の加入, 2017年春からの2人体制, 外来看護スタッフのかかわりにより患者満足度を高めている。さらに, 新しい機能温存手術として経口的咽頭癌切除を開始している。これは, 近い将来の手術支援ロボットDaVinci導入を見据えての活動である。

【総評】手術以外にも頭頸部癌の放射線化学療法では口腔ケア, 胃瘻増設, オピオイドベースの疼痛管理, 放射性皮膚炎管理プログラムなどの多彩な支持療法により安定した治療を可能にしている。今後は,

これまで以上に県内主要施設, 県外施設との臨床, 研究面での共同作業が必要と考えられる。

(文責 佐藤雄一郎)

11. 形成外科

悪性腫瘍およびそれに関連する再建	82
乳房再建用エキスパンダー挿入 (一次26症例, 二次9症例)	35
乳房インプラント挿入 (一次一期1症例, 一次二期24症例, 二次二期1症例)	26
乳輪乳頭作成	3
エキスパンダー挿入	2
縫合	1
植皮	1
局所皮弁	1
有茎皮弁	6
遊離皮弁	7
皮膚腫瘍	4
切除術	4
瘢痕, 瘢痕拘縮, ケロイド	10

瘢痕拘縮形成術	10
その他	11
眼瞼下垂症手術	1
その他 (静的再建, 血管処理など)	10
計	107

2013年10月から常勤化しましたが, 手術件数は落ちてきました。他科との手術は40件あり, 乳腺外科, 頭頸部外科, 整形外科, 外科, 婦人科等と手術させていただいております。乳房再建関連手術は69件であり, 手術の64%以上を占めています。引き続き他科との手術ならびに乳房再建等に積極的に取り組み, ご紹介頂いた患者さんにはご納得いただけるよう対応したいと考えています。

(文責 坂村律生)